

令和元年度 学校評価(教員自己評価) 裏面あり

A欄	
昨年度の学校評価項目 (保護者、学校評議員)	①学校の教育方針が、ホームページや学校新聞等で、保護者や地域社会にわかりやすく説明されている。 ②生徒は、地域社会との交流やボランティア活動を活発に行っている。 ③魅力的な学校行事や活発に部活動が行われている。 ④教職員は、生徒への声かけや面接指導を通して生徒理解に努め、協力して生徒指導に対応出来る体制がとれている。 ⑤学校内外の施設・設備は整備が行き届いており、生徒が安全・快適に学校生活を過ごす環境になっている。 ⑥教職員は、一人一人の理解レベルに合わせて、知識や技能の定着を図るため指導の工夫を行っている。 ⑦教職員は、資格取得やものづくりを重視し、生徒個々の自己実現、進路実現ができるよう努力している。 ⑧保護者や地域社会からの問い合わせや来校者に対して、教職員は適切な対応を行っている。 ⑨学校は保護者や地域住民に授業や行事などへ参加の呼びかけをしている。また積極的に地域の行事に参加している。

学校評価	自己評価の実施	点検・評価表 (目標達成が、4:できた 3:どちらかというときできた 2:どちらかというときできなかった 1:できなかった)	A 欄 分 類	30年 (参考)		令和元年 評価		○印				
				評価	平均	評価	平均	評価 4	評価 3	評価 2	評価 1	
領 域	評 価 項 目	実 践 目 標										
開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	相産だより、学年・学級・生徒指導部・保健部だより、ホームページ、ラインネットなどで保護者、地域に学校の情報を提供する。	①⑧	○	3.5	○	3.5	23	27	0	0	
	PTAとの連携	学校行事をとおしてPTAと連携し、生徒の指導について協働した取り組みをする。	⑧⑨		3.3	○	3.4	21	26	3	0	
	中学校、企業との連携	中学校訪問、企業訪問を通して地域の中学校、企業に学校の情報を提供し、理解を促す。	①⑧	○	3.2	○	3.3	20	26	4	0	
	学校評議員制度等を活用した学校運営の推進	保護者へのアンケート、学校評議員からの意見を学校運営に反映、授業や学校行事の改善に役立てる。	③⑩		3.1	○	3.2	16	29	5	0	
魅力ある学校づくり	国際交流	韓国・台湾の学生と交流を行い、グローバル化を図る。	⑤	△	2.8	△	2.2	2	17	21	10	
	ボランティア活動・地域貢献	地域に清掃活動やおもちゃ修理などで貢献する。	③	○	3.5	○	3.6	31	17	2	0	
	情報管理・広報の活用	インターネット、グループウェアの利用を促進し、情報の取り扱いについて職員の理解を深める。ホームページ、ラインネットを通じて保護者、地域への情報提供を促進する。また、情報モラルについての教育を推進した。オープンハイスクールやチーム広報相産の結成を行い、本校を幅広くPRする。	①⑤ ⑩		3.3		3.2	15	29	6	0	
学校安全管理の充実	防災・安全教育	防災・減災に関する知識の普及と避難訓練の実施による意識の向上と対処能力を養う。	⑦	○	3.2	○	3.5	25	25	0	0	
学校行事の充実	行事の企画・立案	各部署で連絡をとり、各種の企画・立案・運営を行う。	⑥		3.0		3.0	12	25	12	1	
特色ある教育課程の編成	学校、学科の特色を出す教育課程の編成	次年度入学生の教育課程の編成と整備を行う。	④⑥		3.2		3.1	12	31	7	0	
	新教育課程に則した学習計画と評価	各科目ごとの「シラバス」「年間指導計画」「評価規準」の内容を充実させる。	④⑩	○	3.3		3.1	12	30	8	0	
生徒の指導内容の充実と規範意識の向上	生徒理解に基づく(個々の特性を生かす)生徒指導を進める	教科指導、道徳教育、特別活動、教育相談を通じた生徒指導を進める。	④⑥		3.2		3.3	19	25	6	0	
	いじめの防止	いじめのない安心・安全に生活できる学校づくりを進める。	③	○	3.4	○	3.3	16	31	3	0	
	生徒の規範意識の向上	服装、頭髪、通学マナー、列車乗車マナー等の規範意識の向上を生徒会より広める。	⑦		3.1		3.1	16	24	8	2	
生徒会活動の充実	生徒会の自治的な活動	活気あふれる学校生活の創造、および、行事への自治的な取り組みを行う。	⑦		3.2	○	3.1	9	37	4	0	
進路実現への支援	進路目標の実現の度合い	ハローワークや夏季学習合宿を通して、生徒の就職や進学の実現を図る。	④		3.3	○	3.2	15	30	5	0	
	進路意識の向上と進路指導の充実	進路行事、学年集会、ホームルーム活動などを通して生徒の進路意識を高め、生徒自ら進路決定できるよう適切な進路指導を行う。	④⑤ ⑥		3.3		3.3	20	24	6	0	
	職業観の育成と進路意識の向上	インターンシップ、進学説明会などを通して進路意識を向上させる方法を検討、実施する。	⑥	○	3.5	○	3.5	28	20	2	0	
	規範意識の向上と社会人としての基礎づくり	学校生活における規律、規範を遵守する心を養うとともに、卒業後に社会の一員としてよりよい生活を目指す態度を育てる。	⑥		3.0	○	3.2	16	30	4	0	
特別支援教育の充実	支援計画の確立	支援を必要とする生徒に対する「個別の支援計画」並びに「個別の指導計画」をたてる。	⑥	○	3.5	○	3.4	20	28	2	0	
	研修会の充実と支援方法の向上	職員向け研修会の実施と充実、生徒個々に応じた支援方法の研究と確立に努める。	⑤	○	3.4	○	3.2	16	29	5	0	
適切な保健管理・保健指導の充実	保健教育	心肺蘇生法とAED・エビペンの操作を教職員、生徒への講習会を実施し習得させる。	②⑨	○	3.5	○	3.6	29	21	0	0	
		性教育、喫煙防止教育、薬物乱用防止教育の充実を図る。	⑦	○	3.4	○	3.5	26	22	2	0	
	環境衛生	校内の清掃を充実させるとともに、地域清掃活動を通して生徒の奉仕精神を育成する。	⑦		3.2	○	3.3	20	25	5	0	
	健康相談	思春期における精神的に不安定になりやすい生徒、また保護者へのキャンパスカウンセリングの充実を図る。	②	○	3.4	○	3.4	23	24	3	0	
図書室の運営	施設・設備の向上及び施設利用の改善	図書委員の当番制の確立を図り、蔵書の充実させることで利用率向上を図り、読書力向上に努める。	⑥	△	2.5	△	2.3	2	21	16	11	
人権教育	社会情勢に伴う人権意識の向上	いじめ事象などをとおして、人を思いやる心を育てる。	⑦		3.1		3.0	8	32	10	0	

評価	△評価1、評価2の割合が20%を超え、評価の平均も3.0以下の項目 今後の改善と対策が必要な実践目標: 5,26,39,44 ○評価3、評価4の割合が90%を超える項目 目標が十分に達成されている実践目標: 1,2,3,4,6,8,13,15,16,18,19,20,21,22,23,24,25,28,29,30,31,32,36,37,38,40,41,42,43,47
----	---

令和元年度 学校評価(教員自己評価) 裏面あり

A欄	
昨年度の学校評価項目 (保護者、学校評議員)	①学校の教育方針が、ホームページや学校新聞等で、保護者や地域社会にわかりやすく説明されている。 ②生徒は、地域社会との交流やボランティア活動を活発に行っている。 ③魅力的な学校行事や活発に部活動が行われている。 ④教職員は、生徒への声かけや面接指導を通して生徒理解に努め、協力して生徒指導に対応出来る体制がとれている。 ⑤学校内外の施設・設備は整備が行き届いており、生徒が安全・快適に学校生活を過ごす環境になっている。 ⑥教職員は、一人一人の理解レベルに合わせて、知識や技能の定着を図るため指導の工夫を行っている。 ⑦教職員は、資格取得やものづくりを重視し、生徒個々の自己実現、進路実現ができるよう努力している。 ⑧保護者や地域社会からの問い合わせや来校者に対して、教職員は適切な対応を行っている。 ⑨学校は保護者や地域住民に授業や行事などへ参加の呼びかけをしている。また積極的に地域の行事に参加している。

28	機械科の特色化の推進		国際貢献ボランティア(車椅子修理)、就業体験等をととして、生徒に心豊かな人間性や職業観・勤労観を養わせる。	③④	○	3.4	○	3.4	4	7	0	0
29		体験活動の充実	インスパイアハイスクール事業を活用し、専門知識、技術を深める。	②③⑥⑦	○	3.5	○	3.5	6	4	1	0
30			熟練技術者「匠の技」によるコンテスト入賞や資格・検定取得の向上をさせることにより、ものづくりを主眼とした学科の活性化を行う。	④⑥	○	3.7	○	3.5	6	5	0	0
31	電気科の特色化の推進	体験活動の充実	学んだ技術・技能を用いて、地域のニーズに応えられる生徒を育成する。	④	○	3.3	○	3.4	3	4	0	0
32			実習・課題研究・インターンシップ等の体験的な学習を通して、自ら探求する能力や態度を養う。	⑥⑦		3.2	○	3.7	5	2	0	0
33		資格取得の合格率の向上	資格検定の補習授業の実施。電気系資格検定の合格率の向上をさせる。	③	○	3.7		3.4	4	2	1	0
34	商業科の特色化の推進	地域貢献事業および体験活動の充実	販売実習、保育実習、介助実習などによる校外実習を通じてコミュニケーション能力やビジネスマナーを高める。	④	○	3.6		3.5	5	2	1	0
35		基礎学力の定着	「体験」に重点を置いた教育課程と科目の精選により、授業方法を工夫したわかりやすい授業を実施する。	②③	○	3.5		3.1	4	1	3	0
36		資格取得の合格率の向上	検定・資格取得のための特別補習を実施、上位級の取得を目指す。	⑥	○	3.6	○	3.8	6	2	0	0
37	国語科の教育推進	基礎学力の充実	漢字検定の受験者を150人以上とし、60%以上の合格を目指す。作文・小論文指導を継続的に行う。	⑦	○	3.0	○	3.3	1	3	0	0
38	数学科の教育推進	基礎学力の向上	習熟度授業により、わかりやすい授業を充実する。数学検定の受験者を20名以上に、合格率を70%以上を目指して、補習等を実施する。	⑥⑦		3.0	○	3.5	2	2	0	0
39	英語科の教育推進	資格取得の合格率の向上	授業始めに、工業英語・商業英語の単語テストを実施する。全商英検・リスニング英検の補習を実施する。文法問題の反復練習をし、基礎学力の定着を図る。英語での発問を増やし、クラスの英語によるコミュニケーションを増やす。全商英検3級受験者80人中60人の合格、2級10人、1級5人の合格を目指す。工業科リスニング英検3級受験者120名中100人の合格を目指す。	⑥⑦	△	2.0	△	2.3	0	1	3	0
40	地理歴史科・公民科の教育推進	基礎学力の向上	教科書の内容について、社会的な用語だけではなく、語句も含めて理解させるように努める。定期考査において、達成の様子を確認する。	⑥	○	3.0	○	4.0	2	0	0	0
41	理科の教育推進	基礎学力の定着 科学的な考え方の定着	科学で扱う語彙や基本的数式を理解し、日常生活に生かせるようにする。授業内容の定着を確認するため、單元ごとに練習問題を解く。	⑥	○	3.0	○	3.0	0	2	0	0
42	体育科の教育推進	生涯スポーツにつなげるスキルアップ スポーツを通じての人間性の育成 生徒自身の健康管理	各種スポーツのルールを順守する事を通して社会性を身に着ける。 ※水泳での50m完泳や、マラソン大会での完走等、基礎体力の充実。 健康の重要性について学び、自分や家族の健康に関心を持つ態度を育成する。	⑦	○	3.5	○	3.8	3	1	0	0
43	家庭科の教育推進	実験・実習等を通しての知識・技術の習得	生活を主体的に想像するために必要な「生きる力」を家庭科の授業を通して習得させる。 各学期で作品を完成させ、発表の場を設ける。基礎縫いと調理の基礎知識の小テストを行い70%の合格率を目指す。	⑥⑦	○	3.0	○	3.3	1	2	0	0
44	高大・高専連携の推進	高度な技術・技能・知識の向上	大学・専門学校先生から高度な授業を受け、専門力の向上に努める。	⑦		3.0	△	2.8	7	28	14	1
45	社会人基礎力の育成	基本的な生活習慣の確立	挨拶をする、服装頭髪を整える、欠席遅刻早退をしない等の指導を通して、高校生としての基本的な生活習慣を確立させる。	④		3.0		3.2	16	28	5	1
46		自ら課題を設定し、解決できる力の育成	「ベル着」の徹底、資格取得の推奨、学校行事への積極的な参加を通して、自ら行動できる力を育成する。	⑤	△	2.9		3.1	12	30	8	0
47	自己管理能力の育成・向上	生徒の実態把握に努め、保護者との連携を図る	定期的な個人面談、養護教諭との連携、生活実態調査などを行い、生徒の実態把握に努める。日々の家庭連絡、学級通信等により保護者との連携を密にする。	④	○	3.3	○	3.3	17	32	1	0

評価	△評価1、評価2の割合が20%を超え、評価の平均も3.0以下の項目 今後の改善と対策が必要な実践目標：5.26,39,44 ○評価3、評価4の割合が90%を超える項目 目標が十分に達成されている実践目標： 1,2,3,4,6,8,13,15,16,18,19,20,21,22,23,24,25,28,29,30,31,32,36,37,38,40,41,42,43,47
----	--